

訪問ガイド **2026**

オルランジュリー美術館

パリ · から 13.50€

https://musee-orangerie.visit-tickets.com/ja/ · 優先入場チケット & 料金



歴史 & エクスペリエンス

起源 & 歴史

オランジュリーから芸術の神殿へ

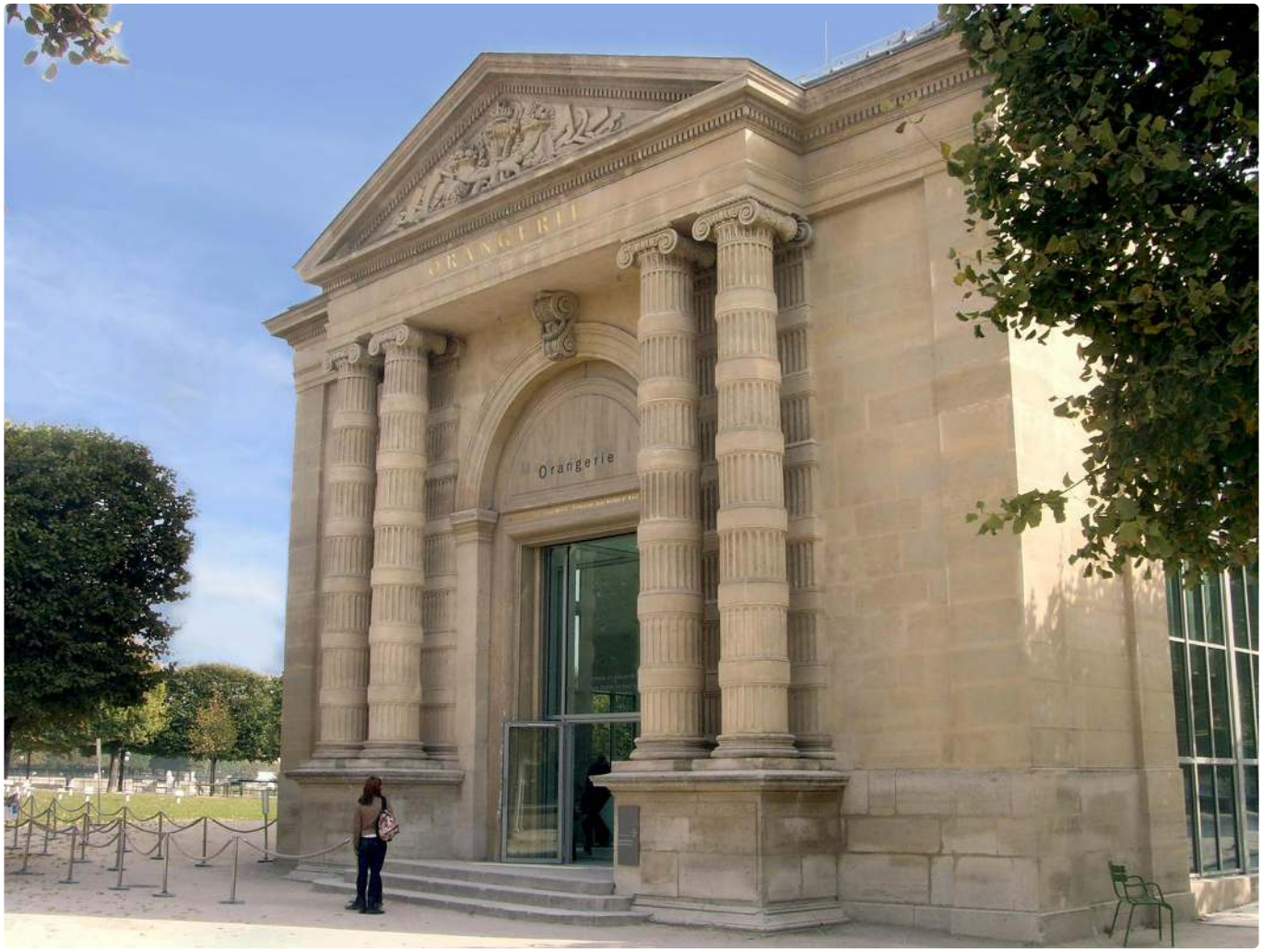
GOOGLE 4.6 ★★★★★ 25 362 レビュー

TIQETS 4.6 ★★★★★ 5 993 レビュー

オルアンジェリー美術館の歴史は、その芸術的使命よりもずっと前に始まっています。 1852年にフィルマン・ブルジョワの設計に基づいて建設されたこの建物は、南側にガラス張りの窓を備え、北側は窓のない構造となっており、非常に明確な目的を持っていた。それは、パリ冬の厳寒期にトゥイルリー庭園のオレンジの木々を保護することである。 この温室構造は、北風から植物を守るために設計されており、首都の都市景観の中でその独特な構造と印象的な名前を与えられた。 数十年にわたり、これらの場所の用途は変化してきた。 1890年から1912年にかけて狩猟および狩猟に関する展示を開催した後、オランジュリーは1921年より現役の芸術家たちのための展示空間となった。 睡蓮の到着により、美術館の運命は決まった。 画家クロード・モネは、両眼に白内障を患い、8点の巨大な絵画を国家に遺贈し、それらを専用の場所に展示することを条件とした。 ジョルジュ・クレマンソー（当時、首相でありモネの親友）の粘り強さが決定的な役割を果たした。 彼は画家を説得して手術を受けさせ、作品の完成を図るとともに、公的機関と交渉し、これらの「大規模な装飾」のための専用空間の設置を実現した。 この政治的・芸術的な闘争は、睡蓮の連作が散逸する危険から救い出し、その重要性にふさわしい展示環境を提供することにつながった。 現在、この施設は、芸術に深い情熱を傾けていた元大統領であるヴァレリー・ジスカールデスタンへの敬意として、2021年3月にその名前が博物館に付けられたことを記憶しています。 2010年よりオルセー美術館に行政的に所属し、現在では印象派の重要な拠点となっている。 この統合により、コレクションの共同管理が可能になる一方で、オランジュリー特有の静謐な空間は保たれ、かつてオレンジの木々が植えられていた時代と同様に、自然光が壁を彫刻するように照らし出している。

体験

ガラス張りのファサードから入った瞬間、絶対的な静寂の雰囲気に引き込まれます。 かつての温室のガラスを通してろ過された天光が、作品を柔らかく一定した輝きに包み込み、印象派の顔料の微妙なニュアンスを捉えるのに最適な環境を創り出している。 ここでは、空気がより静かに感じられ、来訪者のささやきと楕円形の間たちの瞑想的な沈黙の間に漂っているかのようだ。 睡蓮に特化した二つの展示室へ向かうにつれ、空間は徐々に狭くなり、訪れる人を包み込むように感じさせる。 もう壁に掛けられた絵画を見ているのではなく、無限の水上風景の中に没入しているのです。 水面の反射、葦、睡蓮があなたの呼吸と溶け合い、時間が止まったかのような安らぎに満ちた静寂の泡を生み出します。 これは都市の喧騒から離れ、パリではめったに味わえない瞑想的なスローライフを誘う、五感すべてを刺激する体験です。



訪問の準備

実用的な情報

住所
第1区・地下鉄: コンコルド駅 (L1, L8, L13) または クールセル駅 (L13, 徒歩10分)。

開館時間
火曜日は休館。季節や学校休暇により開館時間が変動します。訪問前に公式サイトでご確認ください。

料金
年齢に応じて子供は無料（バリアントを確認してください）。{promo}。

所要時間
睡蓮の楕円形サロン2室とウォルター・ギュイームコレクションをゆっくり鑑賞するには、1時間半から2時間を確保してください。

撮影
フラッシュなしでの撮影は許可されています。印象派の繊細な絵具を保護するため、フラッシュの使用は厳禁です。

対象者
インティメートな体験を求めるカップルやアート愛好家におすすめ。バリアフリー設備と適度な所要時間により、家族連れにも対応しています。

アクセス方法

アクセス & 交通手段

メトロ / RER
: ル・サンフロランタン通り — 4 min à pied
サンラザール駅 (10 min)・モンパルナス駅 (12 min)

バス
: アレクサンドル3世橋 — 8 min à pied
サンラザール駅 (14 min)・モンパルナス駅 (18 min)

車
サンラザール駅 (8 min)・モンパルナス駅 (12 min)

Vélib / 自転車
サンラザール駅 (9 min)・モンパルナス駅 (14 min)

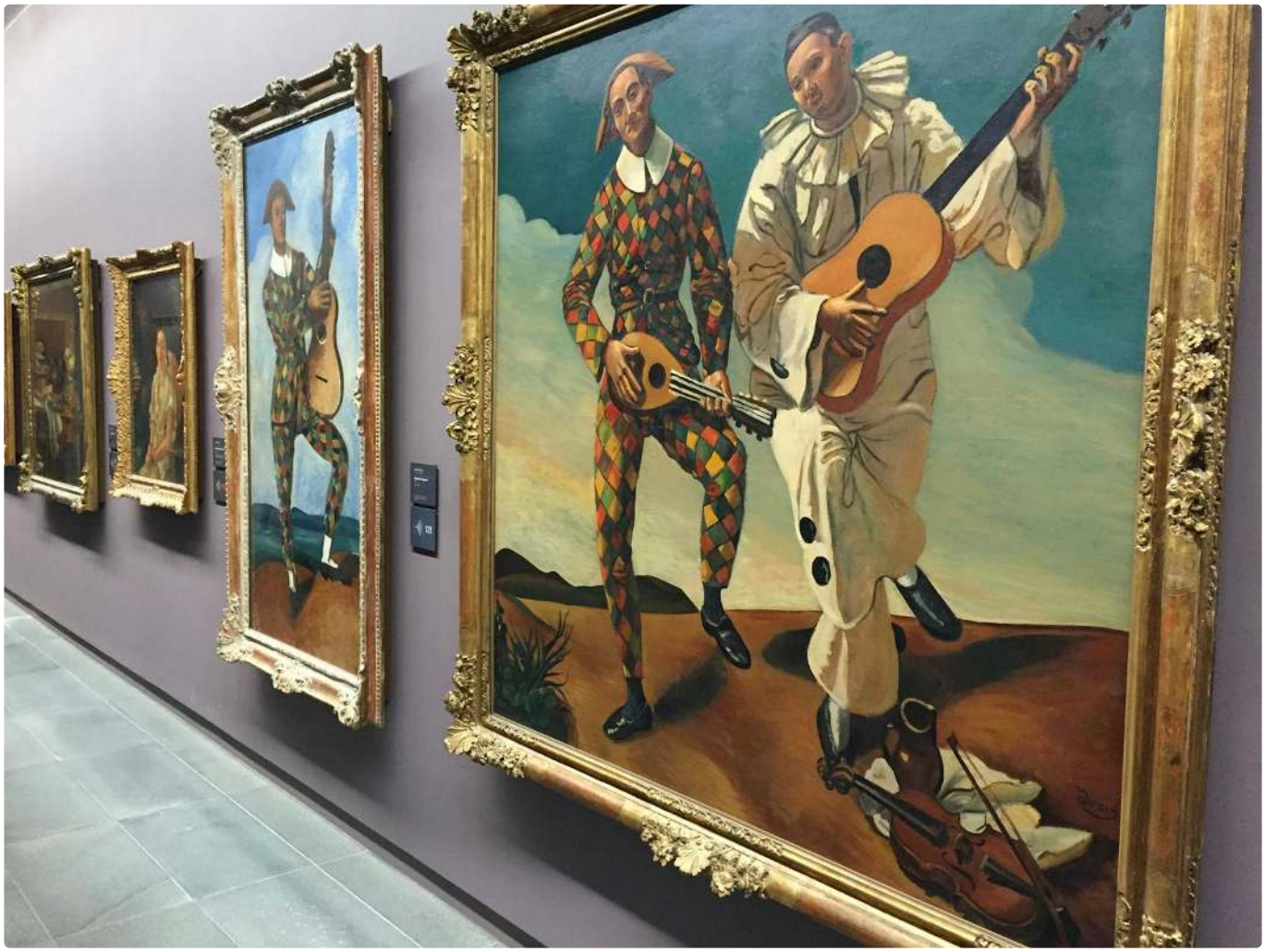
LOCALISATION

Où se trouve オルランジュリー美術館 ?



📍 Musée de l'Orangerie, jardin des Tuileries — 75001 パリ

🌐 48°51.827′ N, 2°19.360′ E



組織

流れるような動線と段階的な没入体験

1階（長方形の展示室）

ここには、レノアール、マティス、ピカソ、セザンヌの名作からなるウォルター・ギュイヨームコレクションが収蔵されています。展示室は年代順に配置され、フランス近代美術の発展をたどることができます。照明はやや拡散型で、古典的な絵画の詳細を鑑賞するのに適しています。最終的な没入体験の前に目を慣らすための理想的な出発点です。

1階（楕円形ホール - 睡蓮）

スパイラル階段またはエレベーターで2つの楕円形ホールにアクセスできます。これらの空間はクロード・モネの8点の巨大な絵画で完全に覆われています。床も天井も区別できず、作品が鑑賞者を包み込みます。照明は薄暗く一定しており、静かな瞑想を促します。ここは美術館の感情的な中心です。

付帯施設 & ショップ

エントランス付近には公式ショップと軽食スペースがあります。コートや大きなバッグを預けるためのロッジも利用可能です。解説パネルには建築の歴史や作品の保存状態について詳しく記載されています。庭園へ向かう前に、お土産の購入を済ませるのに便利な場所です。

アクセシビリティ

♿ 車椅子アクセス

エレベーターと専用駐車場を備えた、移動に制約のある方への完全アクセス対応。

👨‍👩‍👧 ファミリー向け

広いスペースとチュイルリー庭園での休憩が可能で、家族連れにも適したツアーです。

🎧 オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語, イタリア語, ドイツ語



必見スポット

選択

コレクションの見どころ

01 CLAUDE MONET 楕円形の間

睡蓮の周期

二つの楕円形の間の壁面全体を覆う8点の巨大なキャンバス。没入感は完全で、観客は水と植物に包み込まれるような感覚を味わう。各パネルは一日の異なる時刻を捉え、光の変化を活かしている。これは本館の代表作であり、30年間にわたる精力的な作業の結晶である。

> 💡 モネは、ギヴェルニーに定期的に訪れていたジョルジュ・クレマンソーの励ましを受け、最後のこれらの絵画を完成させるために、自分の主治医によって白内障の手術を受ける必要があった。

02 CLAUDE MONET 常設コレクション

日本橋

ジヴェルニーの赤い橋を異なる光や季節で描いた絵画シリーズ。鮮やかな色彩は睡蓮の優しさと対比している。水面の反射表現におけるモネの技術的な巧みさを観察できる。これらの作品は、大規模な装飾画における完全な抽象化以前の、より伝統的な視点を提供している。

> 💡 赤い橋は1899年にジヴェルニーの庭園に追加され、友人から贈られた日本橋に触発されたものであり、モネのアジアへの愛を象徴している。

03 PIERRE-AUGUSTE RENOIR 第4展示室

ラベンダーのリースを持つ少女

レノワール成熟期の典型的な明るく楽しい肖像画。少女の顔立ちはやわらかな筆致によって穏やかに描かれている。緑色でぼやけた背景が、笑顔の顔を際立たせている。これは印象派における人物と自然の調和の完璧な例である。

> 💡 レノワールは1889年、すでに右手に影響を与えることになる関節リウマチの初期症状に苦しんでいた時期にこの作品を描いた。

04 PAUL CÉZANNE 6号室

林檎の静物

この絵は、印象派から未来的なキュビズムへの移行を物語っている。林檎と皿の幾何学的な形態が構図を支えている。モネの流動性とは対照的に、セザンヌは絵画に堅牢さを与えようとした。現代美術の進化を理解するための重要な作品である。

> 💡 セザンヌはこう言った。「私は、美術館の芸術のように堅牢で永続的なものとして、印象主義を確立したい」。

05 HENRI MATISSE 7号室

座っている女性

マティス晩年の代表作であり、鮮やかな色彩の平塗りによって特徴づけられる。簡略化された線と黒い輪郭が力強いグラフィック的な印象を与える。暖色系のパレットは隣接する作品の寒色調との対比を成している。フランス近代主義における東洋芸術の影響を示している。

> 💡 マティスはニースで多くの時間を過ごし、パリのアカデミックな制約から離れて、より自由で色彩豊かなスタイルを発展させた。

06 ALFRED SISLEY 第3展示室

ブローニュ港

モネとしばしば関連付けられる画家、シスレーは都市風景や海景の描写に長けています。この絵画は、港の霧深い雰囲気を卓越した気象表現で捉えています。船や人物は速やかで動的な筆致で描かれています。これは19世紀末の産業生活に関する貴重な証言です。

> 💡 シスレーはイギリス出身の唯一の印象派画家であり、その芸術的「国籍」の欠如を理由に批判を受けることもありました。

07 AMEDEO MODIGLIANI 第8展示室

モディリアニ夫人の肖像

細長い顔立ちとアーモンド型の目で識別可能なこの肖像画は、モディリアニ独自のスタイルを体現しています。画家のミューズであり伴侶でもあったジャンヌ・エビュテルヌは、憂鬱なまでの優しさで描かれています。暗い色彩が視線の強さを際立たせています。これは感情と個人的な生い立ちに満ちた作品です。

> 💡 モディリアニは、ジャンヌ・エビュテルヌが二人目の子を妊娠していた時期に彼女を描き、それは彼女の1920年における早逝の少し前のことでした。

08 ショップ/情報スペース

モナ・リザ（複製品/文脈）

モナ・リザはルーヴル美術館に収蔵されていますが、オルセー美術館のオランジュリーではしばしば期間限定展や比較的文脈が提供されます。ただし、現在の展示についてはヴィジャ・セルミンスに焦点を当ててください。彼女の夜空を題材としたモノクロ写真群は、魅力的な現代の対比を提供しています。これらは光と闇への瞑想を促し、睡蓮と微妙に対話しています。

> 💡 ヴィジャ・セルミンスは黒と白のみを使用して作品制作を行っており、版画や写真の技法を用いて、細部まで精密なイメージを生み出しています。

アドバイス

落ち着いた見学のためのヒント

タイミング

午前9時から10時の間の開館直後を目標にしてください。この時間帯は天頂光が完璧で、睡蓮のニュアンスを最も美しく楽しめます。また、午後早めに来場する大規模な観光客グループを避けることができます。

入場券

特に週末は、事前にオンラインで予約することが必須です。時間帯枠はすぐに埋まりますが、予約をすることで長時間の行列なしに確実にアクセスできます。パリ・ミュージアムパスでは、必須の時間指定予約に代わるものではありません。

見学ルート

ウォルター・ギュイーム収蔵品の長方形の展示室から始まり、その後「睡蓮」シリーズが展示された楕円形の部屋へと進みます。この動線は最終的な没入体験への滑らかな移行を可能にし、巨大な絵画の密集による視覚的疲労を避けることができます。

写真

フラッシュの使用は厳禁です。低照度に対応した撮影モードを使用するか、あるいは目だけで鑑賞してください。最も美しい写真は、三脚を使わず他の来館者の邪魔にならないよう、楕円形の展示室でキャンバスに映る水面の反射を捉えたものです。

休憩

見学後、トゥイルリー公園を散策して、見た作品を消化しましょう。公園のギャラリーには多くの歴史的カフェがあり、緑豊かで静かな環境でコーヒー休憩や軽食を楽しむことができます。

子ども

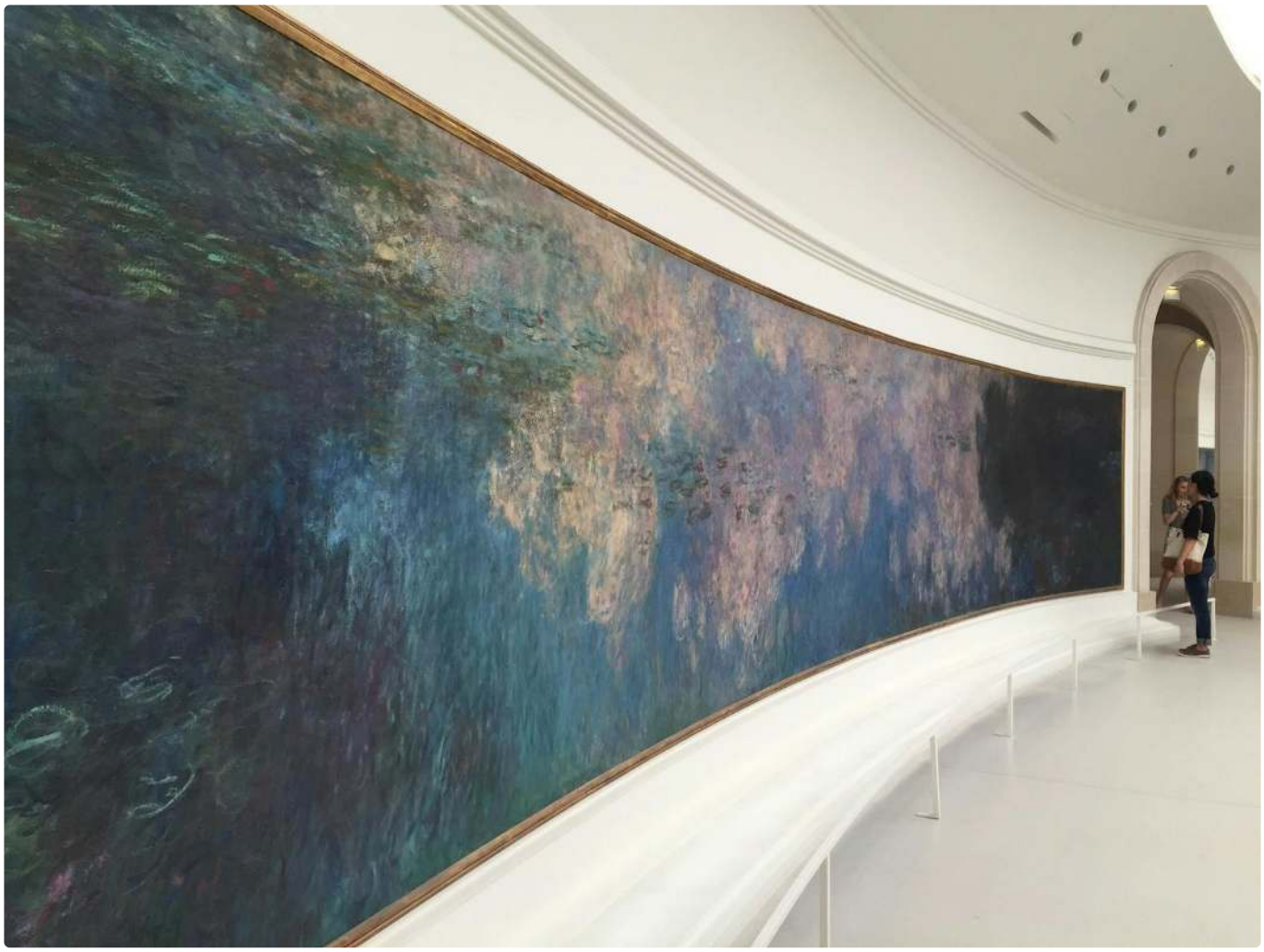
車椅子対応の設備と適度な見学時間により、家族連れでも利用しやすい美術館です。モネの『睡蓮』の色を観察したり、レノアールの絵に隠された細部を探したりするなど、簡単なアクティビティを用意して、子どもたちの興味を維持しましょう。

オーディオガイド

音声ガイドは強く推奨されており、複数言語で利用可能です。モネの生涯や建築の歴史に関する重要な背景情報を提供し、単なる観察を作品への深い理解へと昇華させます。

快適さ

トゥイルリー公園ではたくさん歩くことになるため、履き心地のよい靴を履いてください。館内にはクロークがあり、コートや大きなバッグを預けることで、各展示室をより自由に回ることができます。



よくある質問

よくある質問

支払いなしで予約できますか？

いいえ、すべての訪問者に対してオンラインでの時間帯の予約が必須です。無料入場またはパリミュージアムパス保有者も同様です。毎月最初の日曜日だけは無料でスロットを予約できます。

パリミュージアムパスだけで入場できますか？

パスは博物館への入場権を与えますが、予約の代わりにはなりません。公式サイトで特定の時間帯を選択する必要があります。この時間帯がない場合、パスを持っていても入口で入場を拒否されます。

キャンセルは何日前まで可能ですか？

予約確認後は、返金およびキャンセルはできません。支払う前に日付、時間帯、参加人数をよくご確認ください。後からの変更は不可能です。

現在プロモーションはありますか？

毎月最初の日曜日は、誰でも入場無料です。ただし、この無料入場の場合でも時間帯の予約は必須です。他の期間限定オファーについては、定期的にサイトをご確認ください。

見学にはどのくらい時間がかかりますか？

完全な見学には1時間半から2時間かかります。睡蓮の楕円形サロンはゆっくりと鑑賞する価値があります。ウォルター・ギュイームコレクション全体とその名作を探求したい場合は、より多くの時間を確保してください。

ご存知ですか？

エピソード＆トリビア

オレンジの木の下での誕生

1852年に建てられたこの建物は、当初トゥイルリー公園のオレンジの木を冬の間保護するために使用されていました。この用途がその名前と、太陽熱を取り込むために設計された南側のガラス張りの構造を説明しています。以前はルーヴルの低いギャラリーに保管されていましたが、オランジュリーはより管理可能で美的な環境を提供しました。

自然光で彫り出された

南側のファサードは太陽光を取り込むために全面ガラス張りにされ、北側のファサードは窓のない壁面（ブラインドウォール）として設計されています。この建築的選択は、もともと北風からオレンジの木々を守るために考案されたものであり、今日では印象派の絵画に用いられる繊細な顔料を保存するために最適な拡散光を生み出しています。

ジスカル・デスタン大統領の遺産

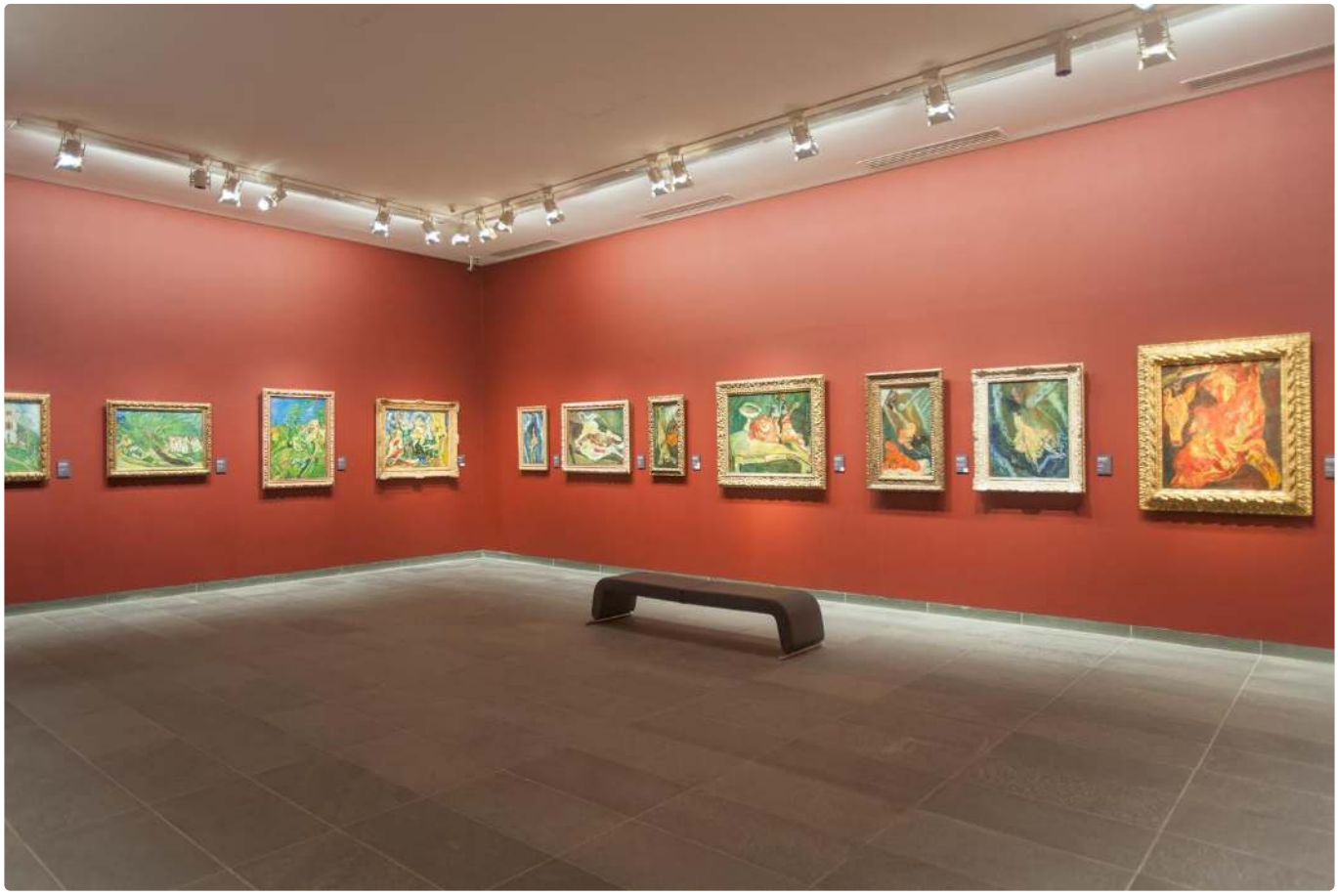
2021年3月より、この公的機関には正式にヴァレリー・ジスカル・デスタンの名前が冠せられた。この称賛は、2020年12月に逝去した元共和国大統領への敬意を表すものであり、彼は芸術の大きな愛好家であり、フランス文化の積極的な擁護者であった。

歴史的な背景

17世紀、この場所には「ル・レノワール」というレストランがあり、現在のオランジェリーが建設される以前は貴族たちに親しまれていました。これらの場所は、産業革命以前の貴族的な交流の伝統を示す、タペストリーで飾られた控えめな小部屋として知られていました。

博物館周辺

オルアンリー美術館は、トゥイルリー庭園の中心部に位置し、絶好の立地を誇っています。 訪問の前か後にかかわらず、この歴史的な公園で、樹齢数百年の巨木の下で日陰のひとときをお楽しみください。 セーヌ川に面したテラスからは、コンコルド広場とエジプトのオベリスクを一望できます。 文化的な体験をさらに深めるために、オルセー美術館は地下鉄でわずか数分の距離にあり、印象派の巡礼コースを完璧に締めくくります。 お腹が空いた場合は、チュイルリー公園のアーケード内に位置する歴史的なカフェで、素早くかつ洗練されたセットメニューをお楽しみいただけます。 また、王宮の歴史を静かに伝える新ビザンチン様式の小さな記念碑である贖罪礼拝堂も見逃さないでください。博物館のすぐ後ろにあります。 この地区は、芸術、自然、歴史が調和して融合し、のんびりと散策するのに最適な環境を提供しています。



オルアンリー美術館を離れるとき、それは純粋な安らぎの一片を胸に抱いて去ることである。 睡蓮を前にして感じた感情は、鑑賞を終えてからずっと記憶に刻み込まれ続ける。 芸術愛好家であれ、ただ静寂を求める散歩客であれ、この訪問は忘れがたい内なる旅となるでしょう。 静かに contemplation に身を委ね、目を閉じて光を味わい、心が安らぎ、新たな明晰さをもって都市に立ち向かう準備を整えてから帰路につくのです。